

「原子炉が倒れる」「鹿島は、耐震構造の偽装をしている」

森重晴雄さん講演会

福島第一原発を語る

～今、進行している危機～

とき：2023年2月11日 午後1時30分～午後4時

ところ：宇部市総合福祉会館 ボランティア交流ホール（大）

宇部市琴芝町二丁目4番20号 電話 0836-33-3156 定員：120人

入場料： 前売り：500円 当日券：700円 学生以下：無料

主催：上関原発を建てさせない美祢・山陽小野田・宇部地域実行委員会

問合せ：080-6331-0960 （安藤）

森重晴雄さんプロフィール

宇部高 1974年卒。名古屋大学で原子力工学、大阪大学で土木工学を学ぶ。

三菱重工原子力部門に24年在籍。

現在の原発の耐震構造発案者。

宇部に最も近い伊方3号機建設責任者。

世界で初めて原子炉炉心を交換。

詳しくは、福島事故対策検討会の代表の略歴を参照。



岸田政権は、昨年来、原発回帰への大転換＝原発の積極的な活用へ踏み出しています。老朽原発の再稼働、運転期間の延長、そして「革新炉開発」という名の新增設です。

だが、待ってほしい。福島第一原発は、2011年3.11の事故から12年、事故は今も続いており、より大きな危険が迫っています。原発の耐震構造の専門家、森重晴雄さんは、ゼネコン大手鹿島によって耐震性能に対する偽装が行われており、一定規模の地震では、原子炉の倒壊がありうるかと訴えています。

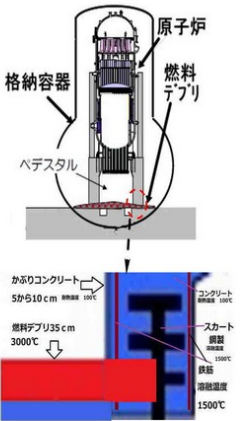
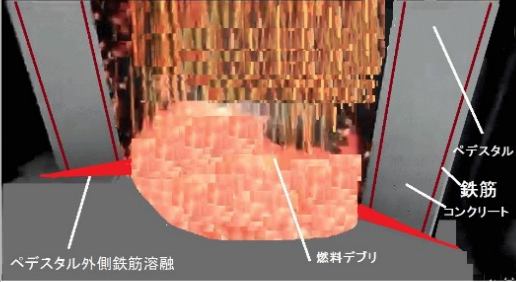
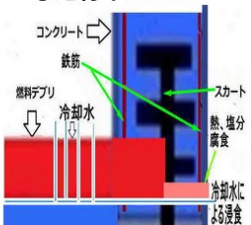
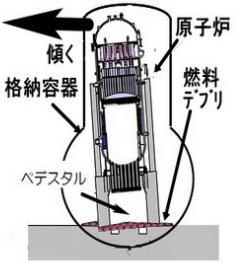
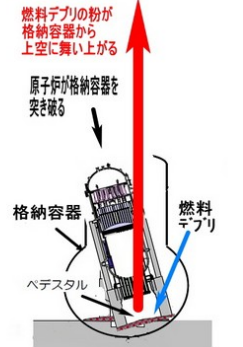
そうなれば、東日本全域が、人の住めないエリアになります。原発活用どころの話ではありません。上関原発の建設などともありません。

原発ゼロへ！森重さんのお話を聞きましょう。

参考資料 福島第一原発 原子炉の倒壊の危険性

福島事故対策検討会のページから転載しました。

<http://www.internetkobe.jp/fukushima/000.cgi>

原子炉倒壊の危険性	
過程	解説
<p>① 炉心溶融直後 鉄筋破断</p> 	 <p>炉心損傷時に落下した2,000°Cを超える燃料デブリが、原子炉を支えているベDESTALの鉄筋を溶融し、ベDESTALを破断している。建築構造物の評価では原子炉を支えているベDESTALは今既に全壊状態である。</p> <p>東電検討資料(18～25頁)</p>
<p>② 進行中 鉄筋を腐食</p> 	<p>炉心溶融時に海水冷却した塩分が基礎のコンクリートの膨張と鉄筋の腐食をさせている。</p> <p>燃料デブリに接しているコンクリートは熱的にも化学的にも燃料デブリから腐食を受ける。</p> <p>燃料デブリを冷却している水が弱くなったコンクリートを浸食する。</p>
<p>③ 進行中? 原子炉が傾き始める</p> 	<p>原子炉の不等沈下が始まる</p> <p>中程度の地震でさえ、倒壊の危険である。先ごろ東北地方を揺らした地震のレベルでさえも脅威である。</p> <p>不等沈下が始まると地震がなくても原子炉が傾く。傾き始めると自重のためさらに傾きが加速される。</p>
<p>④ 中型地震時?</p> 	<p>地震により原子炉が倒壊する。</p> <p>1号機原子炉が格納容器を突き破り、格納容器に100㎡以上の大穴が開く。開いた大穴から燃料デブリ100tから少しずつ数10年に渡り放射性粉塵とガスが上空に飛散する。</p>